



バドミントン愛知

No.
159

令和5年1月 発行者／愛知県バドミントン協会 編集者／広報委員会

第141回 令和4年度 秋季愛知県新人バドミントン大会

今大会も春季大会同様に、大会小規模化実現のため単複どちらか1種目の出場に限定して、8月27日(土)に男女ダブルスを名東スポーツセンターで、8月28日(日)に男女シングルスを刈谷市体育館で開催した。

男子シングルス 優勝
柴田京将選手男子ダブルス 優勝
(左)岡野祥太選手
(右)高平息吹選手女子シングルス 優勝
樺尾零玖選手女子ダブルス 優勝
(左)小林寿来選手
(右)金子理南選手

種目	優勝	準優勝	三位	参加数	
男子単	柴田京将 (SMAGAN)	安藤 心一 (豊田合成)	日比 貴博 (大里東Jr)	因藤 将夢 (はりーあっぷJr)	115
男子複	岡野 祥太・高平 息吹 (岩倉パラレル・個人登録)	花井 正直・山本 良哉 (BudBud)	東 碧人・渡部 元樹 (G. spank-KEPPARE)	内田 皓介・川村 裕介 (RHBT)	62
女子単	樺尾 零玖 (大里東Jr)	早水 咲葵 (NOCK)	加山 華 (大府中)	稻原 健乃 (大里東Jr)	49
女子複	小林 寿来・金子 理南 (日本福祉大)	松島 花奈・豊島 思歩 (日進Jr・名古屋スポ少)	鈴田 こころ・市村 玲七 (大府南中・大府北中)	河村 杏珠・松久保 ひかり (大里東Jr)	30

S/Jリーグ2022 刈谷大会

令和4年11月13日(日)3年ぶりにウイングアリーナ刈谷で開催された。

今年度は11月5日(土)、6(日)の開幕戦から、年明け2月11日(土)、12(日)の順位決定戦およびトップ4トーナメントまで4か月に亘って開催される。刈谷大会は第3日目となり、男子はJブロックの4チーム2試合が、女子はSブロックの4チーム2試合が行われた。開始式ではオープニングセレモニーとして全日本吹奏楽コンクール全国大会出場38回(うち金賞16回)の輝く実績を誇る、愛工大名電高校吹奏楽部の華やかなマーチング演奏が、観客から大喝采を受け会場を盛り上げた。チーム、選手のモチベーションも上がり、競技が開始された。

男子は第1試合で地元東海興業が強豪NTT東日本に挑み0-3で敗れたが、シングルスで西野勝志選手が桃田賢斗選手から第1ゲームを奪いファイナルゲームに持ち込む健闘を見せた。第2試合では上位進出を目指すジェイテクトがコンサドーレに2-1で順当に勝利した。野田悠斗・相澤桃李ペアの安定感のあるダブルスと今期から加入した日本A代表の西本拳太選手のシングルスでの圧倒的な力が見事であった。

女子は第1試合で日本A、B代表を4人擁するヨネックスとACT SAIKYOの対戦となり実力を発揮したヨネックスが勝利した。第2試合でS/JリーグIIから昇格しトップリーグ初参戦となった東海興業が七十七銀行に挑み、第2ダブルスで井上洸・肥田木あかりペアが勝利し、善戦した。

1850人の観客は皆、世界で戦うトップ選手の華麗なテクニックと圧倒的なパワーに魅了され、また試合終了後には人気選手の西本選手、桃田選手がジュニア選手のサインに快く応じるなどして、有意義な大会となった。今後2月まで、愛知県より参戦している各チームが良い成績を収められるよう期待したい。

(愛知県協会 副理事長 井上龍)



桃田賢斗選手



西本拳太選手



開会式マーチング演奏

第65回全日本社会人バドミントン選手権大会

令和4年9月2日～7日、一宮市総合体育館で3年ぶりに開催した。愛知県での開催は6年ぶりだ。1000人を超える参加者が全国から集まり、日本代表も多く含まれる。社会人ナンバーワンを決め、上位に入れば全日本総合大会への出場権が得られるので、選手としては重要な大会である。5種目(男女单・複、混合複)が行われた。

男子シングルス決勝

決勝は富山県同士の戦いとなり、大林拓真選手(トナミ運輸)が同じチームの秦野陸選手を粘り強い総合力で下し、初優勝。



大林拓真選手

女子シングルス決勝

第1シードの高橋明日香選手(東京・ヨネックス)が香山未帆選手(東京・BIPROGY)に順当に勝利し、初優勝。



高橋明日香選手

男子ダブルス決勝

準決勝で接戦の末、第1シードに競り勝った井上拓斗・三橋健也ペア(東京)が、強豪を破って勝ち上がってきた竹内宏気・小川桂汰ペア(岐阜)に勝利し優勝。井上選手は2回目の栄冠を勝ち取った。



(左)井上拓斗選手
(右)三橋健也選手

女子ダブルス決勝

日本B代表同士の決勝となった。櫻本詢子・宮浦玲奈ペア(東京・ヨネックス)が櫻本選手の強打、宮浦選手の卓越した技術力をいかんなく発揮し、初優勝を飾った。



(左)櫻本詢子選手
(右)宮浦玲奈選手

混合ダブルス決勝

霜上雄一(神奈川・日立情報通信)・加藤佑奈ペア(熊本・再春館製薬所)が息の合ったプレーで圧勝し、初優勝。



(左)加藤佑奈選手
(右)霜上雄一選手

愛知県勢は、混合複で小野菜保選手(熊本・再春館製薬所)と組んだ小林晃選手(ジェイテクト)が見事3位に入賞した。ベスト8に入った選手は次のとおり。

男子複：本田尚人・大関修平ペア(大同特殊鋼)
小林晃・宮嶋航太郎ペア(ジェイテクト)
野田悠斗・相澤桃李ペア(ジェイテクト)

(愛知県協会 副理事長 井上龍)

理事長年頭挨拶

愛知県バドミントン協会
理事長 朝倉 康善



明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願ひいたします。

昨年は本会所属の選手諸君が各層大会にて大活躍をされました。本当に喜ばしい限りです。本年も彼らをはじめ、後に続く多くの選手が県内で、全国で、世界で一層活躍されることを大いに期待しております。

さて、そろそろ年度末に差し掛かり、次年度の構想を練る節目の作業を進めております。昨年11月にある研修に参加し、「良い組織とは」について学んできました。

- ①組織の存在意義が明確になっている(何のために組織があり、活動しているのか?=目的)
- ②理想の姿が明確になっている(いつまでに何をどうしたいか?=目標)
- ③組織の行動規範が明確になっている(ルールやモラルを皆で守る)

この3つがメンバーで共有されると、活動に対する自信や誇りに繋がり、組織の一体感に繋がります。

本会も毎年全国大会を誘致し、ジュニア強化に尽力しておりますが、皆多忙を極めています。一度じっくりと自らを見つめ直し、組織の力を維持前進させるためにも良い組織へのアプローチを皆で検討したいと思います。傘下の団体の皆様も同様にご考察いただければ幸いです。

特集

明日へ駆ける



令和4年度 愛知県高等学校新人体育大会愛知県予選会

9月に行われた各地区予選の結果を受けて、県予選が10月22日、23日、30日の3日間にわたり県内各地で開催した。新チームとなって初めての大会で、例年以上に各校の力が拮抗していたこともあり、団体戦、個人戦単複でも上位に様々な選手が名前を列ねた。

男子学校対抗戦

今回も市邨と岡崎城西の決勝となった。1年生を中心としたメンバー編成の城西は渡邊・後藤のエースダブルスを2複にまわし勝負に出た。高いラリー力で市邨の横井・馬場を追い詰めるが、気持ちの入ったプレーでしのぎきった横井らが勝ち切った。この勢いに他の市邨の選手も鼓舞され、1複の鈴川・寺西、1単の毛利は競る場面があつても要所でしっかりと攻め切った結果、共にストレートで勝ち切った。結果3-0で市邨が勝利を収めた。キャプテンの寺西は「個々の力は例年より落ちるかもしれないが、チーム力で優勝をつかむことができた。選抜でもベスト8を目指せるようここからさらに力をつけていきたい」と話した。



名経大市邨

女子学校対抗戦

女子も市邨と岡崎城西の組合せとなった。1複の中上・前田(市)vs高野・山内(城)と2複の坂咲・山田(市)vs伊藤・永平(城)が同時開催された。



岡崎城西

どちらもシーソーゲームで、ファイナルゲームまで纏り込み、1複を市邨、2複を城西がとり、1単へ。1単の近松(市)vs松久保(城)は接戦だが2-0で市邨。ここで2-1と市邨にリードがかかっていたが、2単の坂奏(市)vs高野(城)は最後まで競り、並行して3単の向井(市)vs伊藤(城)も行われ、先に2-0で伊藤がとったので、チームの勝敗は2単に委ねられた。結果、ファイナルゲームを19-21で高野が粘り勝ち、城西の勝利が決まった。

キャプテンの高野は、「市邨に勝って優勝することを目標に練習してきた。最後まで強気で戦えたこと、1年生の力を生かしキャプテンとしてチームをまとめてきた。勝てて良かった。東海大会でも優勝できるよう、もう1段階目標を上げて毎日の練習を頑張りたい」と嬉しそうに語ってくれた。

なお学校対抗の優勝校および個人戦の上位各2名(組)は3月に岩手県で行われる全国選抜に出場する。活躍を期待したい。

(高体連 大村悠介・上出美佳)

	男 子			女 子		
	学校対抗	複	単	学校対抗	複	単
優勝	名経大市邨	寺西・鈴川(市邨)	寺西(市邨)	岡崎城西	向井・清田(市邨)	高野(城西)
準優勝	岡崎城西	寺嶋・三木(名電)	鈴川(市邨)	名経大市邨	加藤・山本(市邨)	近松(市邨)
第3位	愛工大名電	毛利・馬場(市邨)	毛利(市邨)	星城	坂咲・山田(市邨)	坂奏(市邨)

勝つための本物——

GOSEN
www.gosen.jp

株式会社ゴーセン 大阪本社／TEL.06-7175-7116 FAX.06-6201-0741

西三河のバドミントン専門店

モリカズモリ

豊田市山之手3丁目100番地
☎ <0565> 29-0055

第46回愛知県中学生新人バドミントン大会

11月3、4、12日に県内各会場で行われた今大会は、3年生が引退した後、初めての県規模の大会ということもあり、緊張した面持ちの選手も多かったようです。今年度はダブルスの出場資格を変更し、学校の枠を越えてペアを組むことが可能になりました。クラブチームで練習している同士で出場する選手もいて、自由度が増したこと、より活気のある試合となり、クラブチーム勢の入賞も複数ありました。

男子シングルスは、昨年の優勝者山脇選手(金屋中)を渡邊選手(市邨中)が接戦の末2-1で破り優勝を果たしました。男子ダブルスでは、第1シードの澤木・江崎ペア(市邨中)が他を寄せ付けない強さを見せ、1ゲームも奪われることなく優勝しました。

女子シングルスは、はりーあっぷの同チーム対決となった決勝戦で松本選手が馬場選手を下し、優勝。女子ダブルスでは、クラブチーム勢の活躍もあり、初戦からレベルの高い試合が多く展開されました。決勝は、蟹江・門川ペア(市邨中)と縣・藤井ペア(はりーあっぷ)が激しく競り合いましたが、第1シードの蟹江・門川ペアが勝利し、優勝しました。

今回の大会は12月に行われる第1回東海ジュニアオープンの選考会を兼ねています。ベスト8に入賞した選手は、県代表として、今後さまざまな大会に出場していきます。プレーだけでなく、マナーなどの振る舞いにも気を付け、全国規模の大会でもさらなる活躍を期待しています。

(中体連部長 大島健太)

第28回 愛知県小学生バドミントン大会団体戦

今年はコロナ禍以前と同様に、1、2部体制で開催し、多数のチームが参加しました。

まず11/19(土)は常滑市体育館にて、2月に岐阜県で行われる東海大会に繋がる1部の大会を行いました。男子上位6チーム・女子上位8チーム。その出場枠をめぐり男子13チーム、女子20チームがリーグ戦とトーナメント戦を行い、団体戦ならではの盛り上がりのある試合となりました。

男子の決勝戦は、西尾ジュニア対T-Jump.Jr。

T-Jump.Jrの選手たちも点数ではかなり追い上げていましたが、さすが今夏、若葉カップで全国優勝を果たした西尾ジュニアが王者の貫禄でダブルス、シングルスの2ゲームを先取し優勝しました。

女子の決勝戦は昨年の団体戦決勝と同じ大里東ジュニア対NOCK。

こちらも取って取られての激戦の中、NOCKの2年生田中選手は、全国大会にも出場する6年生河村選手に臆することなく、果敢にシャトルを拾う姿がとても素晴らしい印象的でした。

結果は2-1で大里東ジュニアの優勝でしたが、これぞまさに団体戦。普段では戦うことがない学年の枠を超えた選手たちの熱い戦いが、見てる側にもいつも以上の感動をもたらしました。

また2部の大会は年明けの1/8(日)に男子20チーム、女子30チームが参加し、愛西市の親水公園総合体育館で開催しました。

(小学生連盟 鈴木由紀江)

東海大会出場チーム

	男子団体1部	女子団体1部
優勝	西尾ジュニア	大里東ジュニア
準優勝	T-Jump Jr.	NOCK
3位	はりーあっぷジュニア	アドバンスジュニア
4位	石ヶ瀬スポーツ少年団	石ヶ瀬スポーツ少年団
5位	大里東ジュニア	はりーあっぷジュニア
6位	岡崎ジュニアB.C	SGUジュニアバドミントンクラブ
7位		TOYOKAWA Jr.B.C
8位		北山東山バドミントンクラブ



西尾ジュニア



大里東ジュニア

第31回全国小学生バドミントン選手権大会東海ブロック予選会

10月9日(日)に静岡県掛川市にある東遠カルチャーパーク総合体育館において、東海4県の予選を勝ち上がった選手たちによる東海大会が行われました。大会は男女6年生以下、5年生以下、4年生以下のそれぞれ単複に分かれて実施され、各カテゴリーで本県代表の選手たちが目覚ましい活躍を見せました。単で12名、複で10組が全国出場権を得られる3位までに入賞しました。これに6年生女子単の推薦選手2名を加えて合計で34名の選手が愛知県を代表して12月に石川県金沢市で行われる全国大会に挑みます。

○6年生以下

男子については単複共にベスト4に3本ずつ残った。単優勝の彦田選手は決勝まで危なげなく勝ち進み、三重の選手との決勝こそ2ゲーム目にやや苦しい場面もあったが地力の差で勝ち切った。複優勝の伊藤・稻原組はミスの少ない安定したラリー力で圧倒的な力を見せつけ優勝を果たした。

女子はこの学年の単は粒ぞろいで夏に行われたABC大会では全国1・2・3フィニッシュを飾っている。そのうちの2名が推薦で出場していない中で、愛知県選手たち4名が小学生とは思えないような非常にレベルの高いフットワーク、ショットを駆使したラリー展開を見せた。特に優勝、準優勝を飾った樋尾選手、大串選手の試合は圧巻であった。

○5年生以下

男子単は各県の力の差が小さく、どこが勝ってもおかしくない印象であった。複に関しても優勝した岐阜のペアが頭一つ抜けているだけで、他の差はない。その中でそれぞれ二人(組)ずつ入賞できたことは立派である。

女子も単複共にトーナメントの序盤からファイナルゲームにもつれる接戦が多く、最後は気持ちの持ちよう一つで結果がどうにでも変わるように思えた。その中、単で優勝した佐々木選手はしなやかなフットワークとラケットワークを武器に勝ち進み、決勝ではシャトルにくらいくらいつきながら接戦を制した。

○4年生以下

男女単複全ての優勝を愛知県勢が占めた。男子単は玉城選手が他を寄せ付けず圧巻で優勝した。複は県予選3位だった白居・田中組がこの短期間で力を下剋上で決勝まで勝ち進み、決勝でも三重1位のペアを下した。

女子単はベスト4を全て愛知県が占めた。こちらも県予選の結果と大きく変わり、県3位の松本選手が栄冠を手にした。複も3組がベスト4に入り、決勝は県予選と同じ対戦となった。県大会で2位であった鈴木・野間組が悔しさをばねに粘り強くラリーを制し、リベンジを果たして優勝を勝ち取った。

全国へ挑む選手たち

- | | |
|-------|--|
| 6年男子単 | 彦田 眼(優勝)、清水 碧(3位) |
| 6年男子複 | 伊藤源征・稻原誉市(優勝)、坂本羽琉・糸野 駿(3位) |
| 6年女子単 | 河村珠莉奈(推薦)、高田万智(推薦)樋尾 雯(優勝)、大串恋々奈(準優勝) |
| 5年男子単 | 花堂里空(準優勝)、松下遼裕(3位) |
| 5年男子複 | 米谷薈人・青山大都(準優勝)、小野春陽・大松谷勇成(3位) |
| 5年女子単 | 佐々木きい(優勝) |
| 5年女子複 | 杉浦小春・神谷紀杏(準優勝)、浦越楓音・長神璃子(3位) |
| 4年男子単 | 玉城春真(優勝)、角倉蓮太(準優勝) |
| 4年男子複 | 白居煌季・田中煌真(優勝) |
| 4年女子単 | 松本紗奈(優勝)、松井理紗(準優勝)、牧田みなみ(3位) |
| 4年女子複 | 鈴木里歩・野間一花(優勝)、浅野莉子・木下伊織(準優勝)、花堂希衣・三石心花(3位) |



小学生全国出場者

(広報委員 大村 悠介)

大府

JR 大府駅西口徒歩 8 分

バドミントンプロショップ
リーダース グループ

SINCE1979

名古屋一社

地下鉄一社南出口より徒歩 2 分

はりーあっぷ

代表 中口直人

TEL(0562)44-5529 FAX(0562)44-5594

(有)リーダース

代表取締役 玉田修光

TEL・FAX(052)703-2767

愛知のホープ

たかのあき
高野 葵姫 (岡崎城西高校2年)



和歌山県新宮市の出身です。6才のときに何かスポーツに打ち込もうと思い、見学に行ったら楽しそうだったのがきっかけでバドミントンを始めました。小学校、中学校と和歌山県でトップの成績を収めました。岡崎城西の久湊選手をはじめとする先輩たちや活躍する卒業生に憧れ、県を越えての高校進学を決意しました。入学当初は、環境の変化や周りとの差についていくのが精一杯でしたが、練習や試合を重ねて成長に繋げていきました。現在は、慎重すぎるところもありますが、キャプテンとしてチームを引っ張る頼もしい存在です。

学校での生活は、明るく社交的で、誰とでも分け隔てなく話すことができるため、クラスで副級長を務めています。授業中、人一倍丁寧にノートをとり全体を待たせるマイペースな一面もあります。趣味は、韓国ドラマを見たりK-POPの曲を聴いたりすることです。3年生が引退し、自分たちが最高学年となった10月の新人戦大会前は、優勝に向けて体力強化のため毎朝ランニングをしたり、攻撃力をアップさせることを意識して練習に取り組んだりしてきました。今後は持ち味のパワーある鋭いショットを活かしながら、課題であるメンタル面も強化していき、どんな選手が相手でも前向きに挑んでいきたいです。個人戦でも全国選抜に出場、上位入賞を目標に、また、来年のインターハイ出場はもちろん、全国レベルでの活躍を目指します。応援お願いします！

(岡崎城西高校バドミントン部顧問 藤井珠生)

フットワーク

此の欄は、連載物のコーナーとして県内各チームの紹介やその他の記事を皆さんに続けてお届けするコーナーです。

今回は

はりーあっぷジュニア

を紹介します。

チームのモットーは「反撃開始」中学生10名、小学生29名の部員が目標に向かい、週5回の練習に一生懸命取り組んでいます。部員数が多く、コートを交互に使う為、自分の番が回ってくると、コート内に飛び込んで行きます。その姿は獣のように見えます(笑)。しかし、そんな部員たちもコートから離れると、泣いたり、笑ったり、甘えてみたりと、どこにでもいる小学生です。



今年は第38回若葉カップで女子が優勝、男子は3位と、男女共に入賞。はりーあっぷ始まって以来の快挙を成し遂げました。この功績は中学生の支えがあり、コーチ陣がそれぞれの課題を捻出し取り組んだことがあります。ひとりひとりの成長を全力で応援するクラブであることを証します。

次は2月23日に行われる東海団体戦に向けて、チームの勝利の鍵となる男子エースの世古、チームの色を作り上げる石川、応援の大切さを知っている坂野、この3人を見守る市川。女子のエースでそのプレーが仲間を引き込む蔡。6年生5人がどんな成長を遂げ花を咲かせるのか楽しみにしています。そして、大事な場面を任せられる5年生、果敢に向かう4年生、切磋琢磨している3年生以下の仲間と気持ちをひとつに、優勝を目指します。

(はりーあっぷジュニア 保護者 世古鮎美)

テニス・バドミントン専門店

ラケット
ショップ **NONAKA**

名古屋市千種区内山町3丁目28番2号
TEL <052> 741-3537

スポーツごころを世界に。

 YONEX®

委員会NEWS

競技委員会

11月13日(日)ウイングアリーナ刈谷において、S/Jリーグ2022刈谷大会が開催されました。MCにZIP-FMのナビゲーター中川大輔さんを迎え、1,500名を超える観客が集まり、熱戦を見守りました。試合はジェイテクトスティンガーズが勝利し、声出し応援が出来ない状況の中でも、大変盛り上がった大会となりました。来年度は開幕戦を行う予定ですので、また一緒に会場で盛り上がりましょう！

指導委員会



お知らせ

令和5年2月25日、刈谷市体育館でトップ指導者を招いて指導者講習会を開催します。

参加者募集！詳細はHPをご覧ください。

審判委員会

9月に行われた全日本社会人選手権大会(一宮市)では、平日にも関わらず各連盟から審判員として多数のご支援をありがとうございました。大会レフェリーからも「審判への理解と協力体制」について、多大なお褒めの言葉をいただきました。また11月に行われたS/Jリーグ2022刈谷大会でも、実業団連盟に全試合の線審及び得点表示を担当いただき感謝しています。次年度も、全国レベルの大会を開催予定です。今後もご協力宜しくお願い致します。

審判連載 ルールブック講座

第6回 「サービスコートの間違い」 (競技規則第12条)

池上 信之

- (1)サービスまたはレシーバーの順番を間違えたとき
- (2)間違ったサービスコートからサーブをしたり、または間違ったサービスコートでレシーブしたとき

皆さんも経験があると思います。では、間違ったときの対応は？

サービスコートの間違いが見つかった場合は、シャトルがインプレーでない時に、その間違いを訂正し、スコアはそのままとする。間違ったサービスコートでサーブ(レシーブ)に気づいたとしても、シャトルがインプレーのときにプレーを止めてはいけません。間違ったサービスコートで行われたラリーは有効です。スコアはそのままです。間違えないように注意してください。

連盟NEWS

小学生バドミントン連盟

11/3(木・祝)にメディアス体育館おおぶで「第9回チャレンジ大会」を行いました。

この大会は、東海大会出場選手以外の選手が対象となっており、どの選手にも優勝は夢ではなく、来年度の県代表を目指すステップアップの場となっています。また3年生以下や2年生以下と種目が多く分けられており、低学年も数多く試合が出来るので、今年は全体で500人近くの選手が出場しました。



6年生男子優勝
伊藤優斗選手



6年生女子優勝
松野心波選手

種目	男子優勝選手	女子優勝選手
6年生単	伊藤 優斗 (石ヶ瀬スポーツ少年団)	松野 心波 (西尾ジュニア)
5年生単	三浦 梢 (ハシルトン)	加山 咲 (北山東山バドミントンクラブ)
4年生単	中東 賢造 (SGUジュニアバドミントンクラブ)	西山 結唯 (アドバンスジュニア)
3年生単	長神 旺征 (豊橋ジュニア)	渡邊 世怜菜 (大里東ジュニア)
2年生以下単	松下 裕瑛 (たんぽぽB.C)	宮下 蒼夏 (SGUジュニアバドミントンクラブ)

市町村だより

一宮バドミントン協会

◆一宮市民秋季バドミントン大会

11月6日一宮市総合体育館にて開催されました。参加者数326ペア。過去最高の参加人数となりました。3級公認審判員資格検定会の実技検定も同時に開催されました。各カテゴリーにおいて審判資格が必要となることがあるため、慣れない審判台からのコールでしたが、全員意欲的に参加していました。

☆女子1部優勝者(有尾、仙谷ペア)コメント

「優勝できてうれしいです。なごやかな雰囲気もありつつ、みんなが真剣に勝負に挑んでいて、自分自身も熱くなれて楽しい試合でした。」

☆男子2部優勝者(桑野、柴垣ペア)コメント

「即席ダブルスで参加しましたが、優勝することが出来ました。普段の練習でやっていることを出せた結果だと思います。」

●知多市スポーツ協会バドミントン連盟●

◆第35回知多市ジュニアバドミントン大会

開催日：令和4年10月30日(日)

会場：メディアス体育館ちた

市内のジュニア教室から69人のジュニアが参加しました。(市委託事業)ダブルス、シングルスともに熱戦を繰り広げ、父兄からの声援も力が入っていました。

種 目	優勝	準優勝
6年以下複	勝崎 慶(旭北J) 早川 梨真(〃)	市来 咲良(八幡バド) 小池亜季南(〃)
5年以下複	高橋翔太朗(知多J) 竹之下大悟(〃)	濱野 光沙(新知J) 長嶺 茉菜(〃)
4年生以下複	松本あすな(知多J) 蜷川 皐(〃)	早川 莉秀(新知J) 立岩 希衣(〃)
6年以下男子単	勝崎 慶(旭北J)	山下 蓮桜(知多J)
6年以下女子単	市来 咲良(八幡バド)	小池亜季南(八幡バド)
5年以下男子単	豊田 快斗(八幡バド)	高橋翔太朗(知多J)
5年以下女子単	濱野 光沙(新知J)	細貝 果布(八幡バド)
4年以下男子単	竹之下大悟(知多J)	堀越 直人(新知J)
4年以下女子単	松本あすな(知多J)	岡田 実夏(八幡バド)

◆第44回全知多バドミントン大会

開催日：令和4年11月5日(土)高校団体戦、6日(日)一般個人戦

会場：メディアス体育館ちた

知多半島5市5町の最大の大会で、高校団体戦(38チーム225名参加)一般個人戦(186名参加)で熱戦が繰り広げられました。特に高校団体戦は名南地区大会で強豪星城高校と互角に戦った半田高校が男女とも優勝を飾りました。

種 目	優勝	準優勝
高校男子団体戦	半田高校A	半田東高校A
高校女子団体戦	半田高校A	常滑高校A
男子複1部	田畠 佳樹(武豊町) 戸田 英寿(〃)	渡部 元樹(東海市) 濱野 翠斗(〃)
男子複2部	岡持 真成(東海市) 村田 洋之(〃)	青木 裕治(阿久比町) 足達 陵(〃)
男子複3部	宮嶋 大輔(常滑市) 名倉 康夫(〃)	田島 宏康(東浦町) 平林 善宏(〃)
女子複1部	國田 佳子(半田市) 田中紗弥香(〃)	
女子複2部	前田 百花(大府市) 木村 真菜(〃)	林 みらい(半田市) 竹内 友香(〃)
女子複3部	高田 美峰(半田市) 竹内 晴香(〃)	田中 淳菜(阿久比町) 阿知波由依(〃)

● 日進バドミントン協会 ●

◆2022年度日進市バドミントン連盟秋季大会

開催日：2022年9月4日(日) 会場：日進スポーツセンター

種 目	優勝	準優勝	3位
男子複1部	梅田 大夢 山内 風王	鹿島 真悟 細川 聖矢	森上 雄斗 森下 浩暉
男子複2部	浅野 哲平 丸山 瑞大	丹羽 康博 半田	浮田 哲治 田立 昌人
男子複3部	谷奥 春陽 浅野 友哉	坂井 悠真 松浦 大夢	河邊 建吾 柴田 大輝
女子複1部	苅谷 悠 金田紗由美	坂井 綾美 寺川 琴音	國田 佳子 松原亜希子
女子複2部	高岡 垣優 菱田 杏由	今井 香織 山本妃富美	高橋 理恵 梅林美知代
女子複3部	水谷 美砂 宮島 麻有	山上 礼子 大嶋 玲子	上田 ちはる 渡邊 麻友
ジュニア(混合単)1部	石田 希羽	横井 碧璃	芦田 咲月
ジュニア(混合単)2部	山本 圭祐	坂井 敬	中塚 結

● 蒲郡バドミントン協会 ●

2022年6月24日、蒲郡体育館で審判講習会、実技検定が実施されました。近隣市からも含め、参加人数は30名。熱心に受講し、全員無事3級資格を取得しました。

● 豊田市バドミントン協会 ●

◆第45回市民バドミントン選手権大会

令和4年11月13日(日)豊田市西部体育館で開催されました。75ペア総勢150人でいずれもハイレベルな戦いとなり熱戦が繰り広げられ大いに盛上がりを見せました。



男子の部
Aクラス 優勝
齋藤 真弘
谷村 高宏
(G.spank・
はりーあっぷ)

女子の部
Aクラス 優勝
窪田 捺希
河村 沙絵
(ちゃちゃまる)

男子の部
Bクラス 優勝
山田 将也
渋谷 築
(井ヶ谷BC)

女子の部
Bクラス 優勝
原田 梨織
山台 向日葵
(KOM)

● 豊橋バドミントン協会 ●

感染防止ガイドラインに基づき万全を期しながら、昨年は予定とおり大会を開催しました。

コロナ禍は見方を変えれば今後の活動内容を見直す良い機会とも言えます。継続するもの、新たに始めるもの、簡素化もしくは止めるものなど、試行を続けて、より効率的な協会運営を目指したいと考えています。

編集後記



あけましておめでとうございます。

昨年は注目度の高い大会が県内で多く開催されました。会場に足を運び日本トップ選手のプレー(S/Jリーグ2022刈谷大会に桃田選手、西本選手たちが出席)を間近で見られた方も多いのではないでしょうか。またジュニア世代の活躍も目を見張るばかり、さらなる飛躍に期待しましょう。

ニューノーマルという新しい生活様式が浸透するなか、今年はどんな年になるのでしょうか…ちょっとワクワクしませんか！

(広報委員 鈴木勝男)

連絡
投稿

〒477-0033 東海市中の池6丁目2-27
広報委員長 上枝 伸
携帯 090-2938-2868

公式サイトアドレス
<https://www.badminton-aichi.com/>
Eメールアドレス
info@badminton-aichi.com

